

11

詩の表現技法を理解する

要点のまとめ

1 用語や形式から詩の種類を理解する。

詩は用語や形式によって分類され、次のような種類がある。

用語

- ・文語詩＝文語（昔の言葉）で書かれた詩。
- ・口語詩＝口語（現代の言葉）で書かれた詩。
- ・定型詩＝音数に一定の決まりがある詩。
- ・自由詩＝音数に特別な決まりのない詩。
- ・散文詩＝普通の文章のように書かれた詩。

形式

- 1 詩の構成要素を押さえる。
 - ・行＝詩の一行一行。
 - ・連＝一行空きで分けられる詩の中の行のまとまり。

3 詩の表現技法の種類と効果を押さえる。

① 比喩＝物事を他のものにとえる。

・直喩（明喩）＝「ようだ」などを使って直接たとえる。

例 花のような笑顔

・隱喩（暗喩）＝「ようだ」などを使わないでたとえる。

例 天使の微笑み

・擬人法＝人間でないものを人間に見立てる。人間でないものの様子を、人間の行動や気持ちになぞらえて表現する。

② 倒置＝語順を普通と逆にして強調する。

例 朝日が窓からのぞきこむ。

③ 反復＝同じ言葉を繰り返して印象を強める。

例 いちめんのなのはな／いちめんのなのはな

④ 対句＝音数や構成、意味などが対となる句を並べてリズムを生み出す。

例 僕の前には 道はない
僕の後には 道は 出来る

⑤ 体言止め＝文末を名詞（体言）で結んで余韻を出す。

例 歩いてゆくのはあの山この山

⑥ 省略＝言葉を途中で止めて後を省略し、読み手に自由に想像させて余韻を残す。

例 今夜み空はまっ暗で、／暗い空から降る雪は……

⑦ 擬声語・擬態語＝音声や動作をそれらしく表してイメージを喚起させる。

例 しとしとと雨が降る。

例題

◆次のA・Bの詩を読んで、後の問いに答えなさい。

A

星と花 土井晩翠

同じ「自然」のおん母の

御手にそだちし姉と妹

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

み空の花を星といひ

わが世の星を花といふ。

かれとこれとに隔たれど

② ③ ④ ⑤ ⑥

にほひは同じ星と花

笑みと光を宵々に

替はすもやさし花と星

されば曙雲白く

御空の花のしほむとき

③ ④ ⑤ ⑥

見よ白露のひとしづく

わが世の星に涙あり。

B

空をかついで 石垣りん

肩は

首の付け根から

④ ⑤ ⑥

なだらかにのびて。

肩は

地平線のように

つながって。

人はみんな

空をかついで

きのうからきょうへと。

子どもよ

おまえのその肩に

おとなたちは

きょうからあしたを移しかえる。

この重たさを

この輝きと暗やみを

⑤ ⑥

あまりにちいさいその肩に。

少しづつ

少しづつ。

(1) A・Bの詩の種類として最も適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

A () B ()

ア 口語自由詩 イ 口語定型詩

ウ 文語自由詩 エ 文語定型詩

(2) Aの詩の——線①「み空の花を星といひ／わが世の星を花といふ」、——線③「見よ白露のひとしづく」に用いられている表現技法として最も適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

① () ③ ()

ア 直喩 イ 擬人法 ウ 倒置

エ 反復 オ 対句

(3) ——線②「かれとこれ」は何と何を指しているか。それぞれAの詩の中から書き抜きなさい。

と

(4) Bの詩の——線④「肩は／地平線のように／つながって」、——線⑥「少しづつ／少しづつ」に用いられている表現技法として最も適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

④ () ⑥ ()

ア 直喩 イ 擬人法 ウ 倒置

エ 反復 オ 対句

(5) ——線⑤「あまりにちいさいその肩に」の後に省略されている言葉を、詩の中から五字で書き抜きなさい。

確認問題

1 次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

強敵

島崎藤村

一つの花に蝶と蜘蛛
小蜘蛛は花を守り顔
小蝶は花に酔ひ顔に
舞へどもくすべぞなき

花は小蜘蛛のためならば
小蝶の舞をいかにせむ
花は小蝶のためならば
小蜘蛛の糸をいかにせむ

やがて一つの花散りて
小蜘蛛はそこに眠れども
羽翼も軽き小蝶こそ
いつこともなくうせにけれ

※すべぞなき＝どうしようもない。蝶が花にとまれない様子を表す。
※いかにせむ＝どうしようか。何とかしたい。

12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

2 次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

アンモナイト

小野浩

ネパールのバザールで買った黒い石
そつと輪ゴムをはずすと
カリリッ
合わさった石は二つにわれた

二億年も前に生きていた貝がそこにあった
太古の海の香りがする
貝はぼくをみているようだ

石に耳を
海の底をはう砂の音も
高いヒマラヤと深い海をつなぐ

てのひらのアンモナイト

※ネパール＝インドの北に接する国。ヒマラヤ山脈中央部南斜面に位置する。

11

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

(1) この詩を用語・形式の面から分類した五字のよび方を答えなさい。ただし、次の□に一字ずつ漢字を記入して答えること。

語				
詩				

(1) この詩はいくつの連から構成されているか。漢数字で答えなさい。

(2) この詩の種類として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 口語自由詩 イ 口語定型詩
ウ 文語自由詩 エ 文語定型詩

(3) 線部「小蜘蛛は花を守り顔」と対になっている行はどこか。行番号で答えなさい。

(4) 5～8行目に用いられている表現技法を次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 直喩 イ 擬人法 ウ 対句
エ 体言止め オ 倒置

(5) この詩を二つの場面に分ける場合、後半の場面はどこからか。後半の場面の初めの三字を書き抜きなさい。

(6) この詩の題である「強敵」とは、何と何を指しているか。それぞれ詩の中から書き抜きなさい。

「 」と「 」

(2) この詩で、体言止めとなっている行はどこか。行番号で全て答えなさい。

(3) この詩では、擬声語が効果的に用いられている。その擬声語を詩の中から書き抜きなさい。

(4) 線①「貝はぼくをみているようだ」という表現の効果として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 語順を普通と逆にして、作者の想像の世界をしみじみと感じさせる効果。

イ 貝の様子を人間のように表現して、作者の想像の世界を生きた感じさせる効果。

ウ 同じ表現を繰り返して、作者の想像の世界のリズムよく強調する効果。

エ 文末を省略することで、作者の想像の世界を読者に自由に想像させる効果。

(5) 線②「石に耳を／海の底をはう砂の音も／高いヒマラヤと深い海をつなぐ」について説明した次の文の□①～③に当てはまる言葉を、詩の中からそれぞれ三字で書き抜きなさい。ただし、二つの□には同じ言葉が入る。

作者がアンモナイトの化石に耳を当てると□①が聞こえてくる。その□②によって、作者はヒマラヤ山脈が昔は深い□③であったことを実感しているのである。

①				
②				
③				

